

いわき市水産物地域ブランド化推進委員会 委員長・矢吹正一

地域ブランド「常磐もの」による
風評払拭プロジェクト



きまじめで心意気のある「常磐もの」たちで、 いわき市の元気を取り戻す

「常磐もの」とは、本来は茨城沿岸から福島沿岸の漁場で獲れた水産物を指す言葉である。親潮と黒潮が交ざる海域にあり、岩場や砂利場など多彩な“海の畑”に恵まれた「常磐もの」は、築地市場の目利きたちから美味しさの証としてそう呼ばれ、震災前は高値で取り引きされていた。津波の直接被害と原発事故の風評被害という二重の苦難に見舞われたいわき市の水産関係者は、「いわき市水産物地域ブランド化推進委員会」を発足させ、「常磐もの」の魅力発信へ想いを一つにしなが、水産業界に立ち向かっている。

水産業の未来に大漁旗をなびかせるために

「プロジェクトが掲げる『常磐もの』の“もの”とは、単なる産品ではなく、いわきで水産業に携わり、復興しようとする人々を含めた言葉でもあります」と語るのは事務局を運営するいわき市農林水産部水産課の片寄秀典さん。いわき産水産物の信頼を震災前に戻すだけでなく、「常磐もの」の信頼回復に努める水産業関係者までもPRする目的もあるという。現在、いわき市では週に1~2回試験操業があり、ようやく沿岸ものの魚が魚市場にも並び始めた。しかし、水揚げ量は震災前の数パーセントにとどまっている。また、福島県漁業協同組合連合会では国の基準の半分以下と定めた自主基準のもとで放射性物質スクリーニング検査を行い、安全性を確かめて出荷しているが、現状では“いわき産”というだけで市場から敬遠されることもあるため、積極的に水揚げ量を増やすことができない。こうした風評の払拭を目指し、いわき市と水産関係者は力を合わせ、地域ブランド「常磐もの」の認知度向上・消費拡大に向けて立ち上がった。まずは「常磐もの」の認知度をあげるために、オリジナルのロゴマークをあしらったツールを制作し、市内外での積極的なPR活動を開始。今後は市内の飲食店や小売店で「常磐もの」を使った商品を提供していくことによって、「常磐もの」の美味しさを直接消費者に味わってもらう機会を増やしていくという。

いわき市漁業協同組合の組合長であり、「いわき市水産物地域ブランド化推進委員会」の委員長を務める矢吹正一さんもPR活動に積極的に参加。「風評をなくすには、生産者がもっと前に立って、情報発信をしなければ。これからも、水産業の未来に大漁旗をなびかせるために、私たち年長者も隠居してられない」と意気込む。安全性への取り組みと、品質や鮮度管理へのさらなる高い目標を課し、「常磐もの」たちは自ら発信を、続けていく。

※本プロジェクトは2016年にいわき市に引き継がれました。



お問合せ

いわき市農林水産部水産課
担当:片寄秀典
所在地:福島県いわき市
平字梅本21番地
TEL:0246-22-7487
<URL>
misemasu-iwaki.jp